

[原著]

理学療法学専攻における初年次教育の取り組み（Ⅰ） ～入学前ガイダンスの実践～

鈴木 誠¹⁾ 西山 徹¹⁾ 高橋 純平¹⁾ 本間 里美¹⁾
鈴木 博人¹⁾ 藤澤 宏幸¹⁾ 古林 俊晃¹⁾

1) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

要旨

理学療法学専攻では平成 22 年度よりこれまで 6 回にわたる入学予定者並びに保護者を対象とした入学前ガイダンスを実践してきた。入学前ガイダンスでは、入学予定者には大学で学ぶための心構えの準備を促し、保護者には本学での教育方針やカリキュラム、臨床実習概要などの説明を行ってきた。参加者へのアンケート結果からは、入学前ガイダンスに対する良好な回答が得られ、開催の目的が概ね達成された。入学前ガイダンスは、入学予定者やその保護者の不安の解消とともに内発的動機づけを維持または確立する機会となり、大変意義深いものであると考える。今後、この取り組みが入学後の永続的な内発的動機づけにどれほど関連しているのか様々な角度から検証を進めていきたいと考えている。

【キーワード】 初年次教育・情意教育・入学前ガイダンス・内発的動機づけ

Ⅰ. はじめに

高等教育進学率が 5 割を超えユニバーサル化が急速な勢いで進行している昨今、学士課程教育の充実は多くの大学にとって重要な課題であると言える^{1,2)}。

一方で、卒後の目的が明確になっている理学療法士養成校の受験生の中には目指すべき将来像を十分に描けないまま進路を選択する者が少なくない。また、近年著しく高度に専門性が進んだ理学療法において、専攻する学生の一部には内発的動機づけが乏しいことから、養成校の授業スケジュールについて行けなくなる者も散見される。内発的動機づけとは、「学習者自身の持つ興味、要求、知的好奇心、自覚などにより、自発的、主体的に学習が行われる場合であ

り、動機づけの契機となるものが主として学習者の内部の要因に存する」³⁾とされており、ここ数年散見される学生の問題に対し、支援が急務であると言える。

このような観点から、理学療法学専攻では大学入学後の円滑なスタートのため様々な支援を試みてきた⁴⁾。我々は、入学予定者が内発的動機づけを高めるためには、早期から実際にキャンパスの雰囲気慣れ、4 年間の見通しを明確にすることで不安の軽減を促すことが重要であると考えている。そこで、平成 22 年度から入学予定者を対象に入学前ガイダンスを実践してきた。

そこで本論では、これまでの取り組みを紹介するとともに、今後の新たな施策を検討するこ

とを目的とした。

Ⅱ.概要

理学療法学専攻の入学前ガイダンスの目的は、二つに大別される。一つは、入学予定者やその保護者に対して大学生活に向けた不安を解消してもらうことである。入学前ガイダンスには入学予定者のみならず、保護者の出席もお願いをし、カリキュラム内容や臨床実習といった当専攻における養成課程の全体像を説明させて頂く時間を設けている。二つ目は、入学後の円滑な授業理解を促すため、理学療法学を学ぶための心構えや入学前に行っておくべき準備（数学や物理学の学習）について模擬講義やグループワークを通じて伝え、高い目的意識を入学まで継続してもらうことである。

入学前ガイダンスは年に 2 回開催している（各回とも 1 日開催）。第 1 回目は 12 月に行われ、対象者は推薦入学試験合格者である。第 2 回目は 3 月に行われ、対象者は一般入学試験合格者である。なお、第 1 回目の参加者である推薦入学試験合格者は、第 2 回目にも参加できることになっている。過去 3 年間の入学予定者及びその保護者の参加状況を表 1 に示す。各回の内容は、それぞれ入学までの時間を考慮し、異なる企画を立案し実施している（表 2）。

Ⅲ.実施内容

以下に、入学前ガイダンスで実施している内容の一部を紹介する。

Ⅲ-1) 模擬講義とグループ演習

理学療法士の仕事の本質を理解してもらうため、理学療法の歴史や身分法などに加え、「生きがい」や「日本人の宗教観」、「義務と権利」、「障害受容」など人が生きていくための哲学を中心に据えた講義や少人数グループでの演習を行っている。これらは早期からの「キャリア教育」の要素も含まれている。また、理学療法学専攻

において特に力を入れている「身体運動学」の理解には、高等学校までに習得した数学や物理学の基礎を必要とするため、事前学習を促している。

Ⅲ-2) 在校生とのグループディスカッション

入学予定者が在校生（3 年生）とともに少人数グループを形成し、テーマに基づいて議論を行う機会を設けている。そこでは他者の意見を聞くということに加え、会話を通じ早期からの友人関係の構築も狙いとしている。

Ⅲ-3) 理学療法検査体験

理学療法に対する興味を喚起するために早期体験学習を行っている。在校生の支援を受けながら入学予定者が自身の生体反応についての検査体験を行う。具体的には、全身運動後に生じる心拍の変動について、その仕組みを学び自らの眼で生体反応を観察する。

Ⅲ-4) 保護者に対するカリキュラム等の説明

理学療法学専攻における 4 年間のカリキュラムと臨床実習体系について説明を行っている。ここでは説明が一方向的にならないよう、事前に質問事項を聴取し（質問紙に記入）、それについて回答する形式をとっている。

Ⅲ-5) 「生活・学習ポートフォリオ」記入指導

大学入学前から規則正しい生活と学習習慣の定着を図る目的で、「生活・学習ポートフォリオ」の記入指導を行っている。ポートフォリオとは、「目標達成のために、その具体的実施内容や成果を記録したファイル」と定義し、参加者には、その取り組みを毎日記録してもらうよう促している。記入項目には「一日の生活リズム」、「自主学習の時間」や「学習内容」を設けている。記入された「生活・学習ポートフォリオ」は、定期的に大学に返送し、教員の添削による個別指導を受ける体制をとっている。

表1. 入学予定者及びその保護者の入学前ガイダンス参加状況

	推薦入学試験		一般入学試験	
	入学予定者	保護者	入学予定者	保護者
平成22年度				
第1回目	75.0	62.5	-	-
第2回目	65.0	50.0	56.8	40.9
第1回+第2回*	97.5	82.5	-	-
平成23年度				
第1回目	75.0	47.7	-	-
第2回目	70.5	45.5	97.2	66.7
第1回+第2回*	100	77.3	-	-
平成24年度				
第1回目	65.7	40.0	-	-
第2回目	88.6	68.6	69.0	51.7
第1回+第2回*	100	82.9	-	-

単位：%

*: 第1回、第2回を通じての全体の参加率

表2. 本学における入学前ガイダンス

- ・開催頻度・時期
年2回開催
第1回(12月): 推薦入学試験合格者
第2回(3月): 一般入学試験合格者、推薦入学試験合格者

- ・実施内容(一例)
模擬講義
グループ演習
在校生とのグループディスカッション
理学療法検査体験
「生活・学習ポートフォリオ」の記入指導
カリキュラム・臨床実習体系説明
学園生活紹介

* 実施内容は各回で変更

Ⅳ. アンケート調査

入学前ガイダンスの今後のあり方について検討を行うため、自由記載によるアンケート調査を実施した。調査対象は平成 23 年度に実施した第 1 回目の入学前ガイダンスに参加した保護者 36 名、入学予定者 61 名の計 97 名であった。アンケート記入に際し、趣旨を口頭にて説明し同意の得られた者の回答のみを扱った。調査方法はガイダンス終了時にアンケート用紙を配布し、その場で記入してもらった。記入後のアンケート用紙はその場で回収し、記載内容から入学前ガイダンスのあり方について検討を行った。アンケートは無記名とし個人が特定できないように実施した。

Ⅴ. 結果

参加した入学予定者及び保護者の全員からアンケートの回答を得ることが出来た。入学予定者及び保護者に最も多く見られた回答は「入学に向けて不安が解消された」という内容であった。しかし、回答の内容をさらに分析すると保護者及び入学予定者では若干の違いが見られた（表 3）。保護者の回答で最も多かったものは、「カリキュラム体系や臨床実習に関する理学療法士養成課程全般」に関する不安が解消されたという内容であった（83.3%）。一方で、「普段の授業の様子等の説明にもう少し時間を割いてほしかった」という声も聞かれた。入学予定者の回答で多かったものは、「理学療法士養成課程で学ぶ講義や演習について理解でき、不安が解消された」（60.7%）や、「勉強に興味を持てた」（39.3%）という内容であった。また、入学前に友人が出来たことで不安が解消されたとの意見も聞かれた（23.0%）。

表3. 入学前ガイダンス アンケート結果

入学予定者		
大学のことが理解でき、不安が解消された	37名	60.7%
理学療法士の勉強に興味を持てた	24名	39.3%
友人が作れて良かった	14名	23.0%
保護者		
大学生生活(カリキュラム、臨床実習等)における不安が解消された	30名	83.3%
理学療法士の本質が学べた	3名	8.3%
大学の取り組みが理解できた	2名	5.6%
先生や学生の表情が良かった	1名	2.8%
専攻説明(概要や授業の様子等)にもう少し時間をさいて説明してほしかった	2名	5.6%

IV. 考察

今回のアンケート結果から、入学前ガイダンス開催の目的は概ね達成されたと考えられる。つまり、不安要素の多い入学予定者が大学生活を円滑にスタートするためには、早期からの関わりが重要であると考えられる。入学試験合格後、早期にキャンパスに足を運び、新たな友人とも顔を合わせて大学の雰囲気慣れ、学ぶ意義を明確に出来れば今後の有意義な学生生活に繋がる可能性が高い。今回参加頂いた多数の保護者や入学予定者から「大学生活に対する不安が解消された」という回答を得た。このことは、入学予定者を中心とした大学教職員と保護者の三位一体とした学習支援体制の観点からも大きな意味を持つと思われる。これまで、保護者に対する専攻の教育方針やカリキュラムの説明は、入学式や保護者懇談会という場でしか行えていなかった。そこで入学前ガイダンスではカリキュラム・臨床実習体系の説明を企画に盛り込み説明を行った。加えて、事前に保護者に対して質問紙を配布し、疑問や質問について記入頂いた。この記載内容をもとに、カリキュラム・臨床実習体系を中心とした説明を行った。保護者一人一人の質問に最大限お答えする機会は、今後の不安の解消とともに入学予定者に対する在学中の精神的支援にも大いにつながると考えられる。

一方で、運営にあたり課題もいくつかあげられる。一つ目に保護者から頂いたアンケートの回答の中で、カリキュラムや臨床実習等に関する概要の説明が中心で、普段の授業での学生の様子が知りたかったという声が聞かれた。今後頂いた意見を参考に内容を再検討していきたいと考えている。二つ目に、入学前ガイダンスの参加状況について検討していく必要がある。ここ数年対象者の参加状況は、推薦入学試験合格者が1回目及び2回目を通じてほぼ全員（保護者は8割）、一般入学試験合格者も変動はあるものの2回目のみ参加で約7割程度（保護者

は5割）であった。このことは、入学予定者や保護者の大学生活準備に向けた関心の高さが伺える。一方で全員が参加できなかった背景には、様々な事情（開催時期や地理的条件など）が考えられる。今後、一人でも多くの入学予定者への早期支援が実現できるよう、開催通知の方法や開催時期の選定といった検討が必要である。

限られた修業年限の中で幅広い知識や技術に加え高い倫理観や使命感を備えた理学療法士を育成していくためには、養成課程における初年次教育の位置付けがますます重要になると考える。今回の大学入学前の時期を利用した入学前ガイダンスは、入学予定者や保護者の不安の解消とともに、今後4年間の見通しを明確にできる機会であり、内発的動機付けを維持または確立するには大変意義深いものであると考える。

現在、この取り組みによる具体的な教育効果の検証については模索段階である。今後、この取り組みが入学後の永続的な内発的動機付けにどれほど関連しているのか、様々な角度から教育効果の検証を進めていきたいと考えている。

V. まとめ

今回、平成22年度より開始した入学前ガイダンスについて、その取り組みを紹介するとともに、今後の新たな施策を検討することを目的とした。参加者へのアンケート結果から、入学に向けての不安が解消されたという声が多く聞かれた。今後は様々な角度から入学前ガイダンスの教育効果の検証を進めていきたいと考えている。

VI. 謝辞

これまで計5回の開催にあたり、理学療法専攻教員並びに大学事務局職員の皆様には多大なるご支援を頂いた。記して謝意を示す。

VII. 引用文献

- 1) 文部科学省 中央教育審議会大学分科会大

学教育部会 「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」 平成 24 年 3 月 26 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm

- 2) 文部科学省 中央教育審議会 「学士課程教育の構築に向けて（答申）」 平成 20 年 12 月 24 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm

- 3) 半澤恒彦, 野呂正, 松井匡治, 野呂アイ, 佐藤寿郎: 教育心理学: 発達疫学研究所出版部 1990 ; pp44-70.
- 4) 藤澤宏幸, 西山徹, 本間里美, 高橋純平, 小林武, 黒後裕彦: 初年次からのコミュニケーション能力開発. 東北理学療法研究. 2012. 10: 31-34.

Initiative for education for new students in the Department of Physical Therapy (I): Implementation of pre-entry guidance

Makoto Suzuki¹⁾, Toru Nishiyama¹⁾, Junpei Takahashi¹⁾, Satomi Honma¹⁾,
Hiroto Suzuki¹⁾, Hiroyuki Fujisawa¹⁾, Toshiaki Furubayashi¹⁾

1) Physical Therapy Course, Department of Rehabilitation, Faculty of Medical
Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University

Abstract

In our department, pre-entry guidance for new students and their parents has been implemented a total of 6 times since 2010. Pre-entry guidance has aimed to prepare new students mentally for university study, while explaining matters such as educational policies and curriculum to parents, and presenting an outline of clinical training. The results of participant questionnaires showed a positive response to pre-entry guidance, with the objectives of the session largely achieved. Pre-entry guidance seems to be extremely significant, as it provides an opportunity to resolve any anxieties prospective students and their parents may have, while maintaining or establishing intrinsic motivation. Future research should examine, from various perspectives, the extent to which this initiative is linked to durable intrinsic motivation after students enter university.

【Keywords】

First-year education, emotional education, pre-entry guidance, intrinsic motivation